

# さくらば節子市政報告

平成29年度 第1号



10/31 キッズと英語でボランティア ハロウィンパーティーでお菓子をゲット



11/3  
「牧っ子秋祭り」で子供神輿の誘導を担当！  
天気が良くて、最高の笑顔を見ることができました

## ごあいさつ

市民の皆さま、春爛漫の今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。

命の芽吹きを感じるこの季節です。雪の下からサラサラと聞こえる小さな川音や、どこららともなく薫ってくる土の匂い。「フキノトウがもうじきそこに生えだしてくるだろうな」とわくわくした気持ちになります。毎年思う事ですが、これは長い雪の季節を味わった者にしか感じ取れない楽しみかもしれませんね。

さて、このような穏やかな季節の変わり目を愛でている余裕があるのもありがたいことです。世界に目を向けてみれば、中東地域は相変わらず戦闘が続き、ヨーロッパでのテロ問題も依然解決されていません。原因を探れば日本も他人事として片づけることができない、国際社会の貧困や政情不安の問題に突き当たります。最近では朝鮮半島の情勢も予測がつかない状況ですので、日本がこれから自国のあるべき姿をどう定めて進んで行くかは大変重要になってくるでしょう。国会では日本国民の全ての福利を考えて大きな視野で議論していただきたいと思います。市議会議員の私達は議論する予算の範囲は1,000億円で、その内容は微に入り際に渡りますが、市民の安全と幸福につながるすべてのことを議題にして日々研究していきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 1. 郷土の偉人たちー上越市が持つ宝

上越市の宝と聞いて、豊かな自然や水と空気の美味しさ。地元でとれる自然の恵みであるおいしい米、山菜・野菜、直江津の海から採れる魚などをすぐ頭に浮かべます。また暖かくて人情味ある人々の暮らしが見えてきます。

私はそこにもう一つ、上越が育んだ偉人たちを加えて考えます。実は恥ずかしながら私が小学校・中学校の頃、世界でも有名な人も含めてこれほど多くの偉人が地元生まれ育っていたことを知りませんでした。言い方を変えれば、子供たちに地元の偉人たちへの畏敬の念を育む教育をしてこなかったのだと考えます。つまりそのようなことに価値を感じていなかったのでしょうか。ここに来て文科省の改革もあり、道德教育に準ずるような内容を授業で取り扱うようになりました。私が議員になって再三教育委員会をお願いしたのは、「上越地域生まれの偉人を集めてその偉業を検証することのできる教育を行ってほしい。」という事です。そして一昨年度、彼らが副読本になってまとめられ、現在市内の小中学校で活用されています。

皆様もご存知の「郵便の父」前島密、発酵と醸造の世界的権威である農芸化学者の坂口謹一郎、「日本のブドウ・ワインの父」川上善兵衛、宮古島人頭税廃止のために尽力した中村十作など、明治前後にこの上越地域に素晴らしく傑出した偉人が多く生まれ育ちました。私の父は農業技術者として若いころ岩野原農園に働いていたのにもかかわらず、娘の私は善兵衛氏が私財をなげうって日本の将来のためにブドウ品種を開発したことを知りませんでした。家族の信頼すら失っても彼が信念を持ち続けた事に関しては本当に頭が下がります。人頭税の廃止に向けて人生をかけた熱い正義の心が板倉の稲増に育ったことを、知人に記念館に連れて行っていただいて始めて知りました。彼ら以外にもたくさん偉人や文化人が生まれ育っています。



現在の板倉区稲増で生まれた中村十作

明治のころ、日本人がどれだけ正義に熱く、誇りに高く、未来の日本のために志を高く持っていたか。ことに上越地域にはそのような気概を持つ青年たちが多かったかがうかがい知れますね。また、こうした青年たちが上京して学ぶにあたって、十分な私財がない場合もありました。彼らに惜しみなく経済的援助をし、各界の著名人に橋渡しをする役目を果たした郷土の豪農、保坂家の貢献も忘れてはなりません。

「義の心」を宿した上杉謙信公に始まり、上越の持つ宝物をぜひ良く知って、誇りにしていきたいものです。

## 2. 私の一般質問

### 12月議会（12/12）

#### ●U・Iターン支援事業について

人口減少時代、全国の市町村では移住対策に全力を注いで入れています。上越市で作成した今年度の移住支援のための新パンフレットには当市の移住支援事業が、暮らし・住居・職業の面から総合的に描かれ、やる気度が見える良い仕上がりです。今後の期待を込めて新パンフレットの効果について、また移住支援を担当する「ふるさと暮らし支援センター」の運営体制について質問しました。

**市長：**パンフレットには移住の為の住居・就職・就農・子育てサービスなどへの支援内容が、移住希望者が関心を持たれる分野ごとに掲載されている。本年度9月より公開したものでまだ反響は出ていないが、職員が移住希望者に対応する際には重宝している。

**櫻庭：**空き家バンクへの登録戸数が全く伸びていない。今後どのようにして増やしていくつもりか。

**市長：**空き家の所有者の皆様へ固定資産税の納付書を発送する際にバンクの情報をお知らせし、提携している宅建協会の抱える空き家情報も登録に繋げていく予定だ。

**櫻庭：**移住促進に成功している地域では体験施設を設けて活用しているようだが、当市でも「空き家」を改修して体験施設を作る場合、しかるべき支援ができるか。

**市長：**現在でも市内の移住サポート団体の体験ツアーなどにも補助金を交付している。また体験宿泊施設は国や県、市の補助金を投入して市内にいくつか整備された。今後もそうした要請があれば、国や県も含めて該当する補助金等を探し出して、必要に応じて支援していく。

**櫻庭：**「ふるさと支援センター」の運営体制は、現状の人数で十分か。

**市長：**センターは移住希望者の多様な相談に対応するワンストップ窓口であり、関係部局の連携が重要になってくる。連携会議を開き、支援策の利用実態や問い合わせへの対応の状況、新たな移住支援制度の情報共有を図っている。現状の体制で引き続き、しっかりと対応していく。

### 3月議会（3/17）

#### ●保育所の行政区を超えた利用について

働く親御さんにとって、自分の生活圏の中で保育所を選択できる自由があることは大変ありがたいことです。保育の連携に関して上越市の現状を聞きました。

**市長：**市では平成13年度から保育園の広域利用を可能にしている。

**櫻庭：**妙高市と当市の間では広域利用ができていないが、問題はどこか。

**市長：**以前から提携を提案してきたが、妙高市側の事情で実現しなかった。しかし今回両市でこの件が質問されたことが契機となったのか、妙高市側から次年度から連携する準備をしているとうかがっている。

#### ●中山間地域施策について

上越市では毎年「中山間地域振興基本条例」に乗っ取った取り組み方針が出されていますが、人口減少と高齢化の著しい中山間地域において特に重要な課題は、買い物弱者対策と交通弱者対策と言えます。現状と取り組みによる成果について質問しました。

**市長：**「買い物利便性向上モデル事業」が平成24年に創設され、以来当該事業者やNPOの買い物支援の取組に補助金を出している。次年度は「中山間地域における買い物環境の実態とニーズ」を把握するための聞き取り調査をする。

**櫻庭：**交通手段が確保されていない地域が多いが、経営的にも持続可能な中山間地域の交通手段はどんな形態だと考えるか。

**市長：**乗り合いタクシーやデマンドバス、移送サービスなど、地域にふさわしい形でそれぞれを補完し合うように取り組んでいる。

**櫻庭：**限界集落が増え続けている。将来の財政危機時代に備え、集合住宅の整備・誘導は必要ないか。

**市長：**現在市の持つ高齢者用集合住宅には空きがあることを見ると需要が少ないと考える。生まれ育った土地への愛着を考えると、最後まで市民の生活基盤を守るのが市長としての責任だと思っている。

### 3. 女性と若者の政治参加 第二段

私が今期のテーマとしている「女性と若者の政治参加」について内山議長の格段の配慮で、全議員が参加して議会改革の一環として取り扱い、調査研究することになりました。その名も「市議を目指しやすい環境整備検討会」です。議員有志が集まり先日第一回目の意見交換会が開かれました。今後は部会を分けて少人数で細かく意見を出し合っ、まとめていくことになりました。テーマとしては

- 議会の役割を伝え、もっと関心を持ってもらうにはどうしたらいいか。
  - 子育て世代などの若者が挑戦できない具体的な要因な何か。
  - 女性が挑戦できない具体的な要因な何か。
  - 厚生年金がないことが弊害になっていないか。
  - 報酬・議員定数など類似自治体議会との比較はどうか。
- などです。

こうした観点から議論を尽くし、必要ならば若者・女性たちを始めとする多くの市民と意見交換しながら、現状を変えて行くことができる提案にまとめていきたいと思っています。

また私個人としては、昨年5月に秋山県議、妙高市の八木市議、横尾副議長、糸魚川市の笠原市議の4人の議員と連携して、上越地域の女性の社会参加を促す「女性の活躍を推進する会」を立ち上げました。月一回程度ですが、「どのようなことが女性の政治参加を阻んでいるのか」を検討しながら、女性たちが今生活の中で直面する課題にまず向き合っていく活動をしています。その直面する課題とは子育てであり、子供の教育であり、職場の待遇であり、結婚や同居の問題であり、また介護の問題であると思います。市民の皆様、特に女性の方々と頻りに意見交換させていただきたいと思っていますので、どうか皆様のご意見をお寄せください。誰もが住みやすい環境づくりを実現していくためにも、女性がしっかりと意見できる環境を整えていきましょう。

## さくらば節子 市政報告 平成29年度第1号

発行日：平成29年4月15日  
発行：櫻庭節子  
住所：〒943-0648  
上越市牧区小川1590番地  
電話・FAX：025-546-7835  
電子メール：  
office@sakuraba-setsuko.jp

公式サイトもご覧ください。  
<http://sakuraba-setsuko.jp>  
Facebookもやってます。

女性の声を市政に

#### 随想

父が三度にわたる骨折を経験して、地域医療センター病院でリハビリに悪戦苦闘している。家族としては以前と同じくらいの伝い歩きでいいから、何とか歩けるようになってほしいと思っている。我が家は古くてトイレまでに段差があるから、足元のふらつきは危険なのだ。でも父は年齢が年齢なのでリハビリしていても疲れてしまい、途中でしゃがみこむ時がある。その姿を見るとちょっとかわいそうだ。

毎日少しずつできないことが増えていくのは、本人にとっても家族にとってもつらい現実である。それでも環境が許す限り、我が家で暮らせることが父にとっての幸せだと考えて、今日も母を伴って病院まで父を励ましに行く。もし努力しても以前の状態にまで復帰できなければ、ケアマネさんと相談して可能な支援を受けることを検討しよう。みんなに協力してもらえれば、何とか家で一緒に暮らせる方法があるだろう。支援の手があるというのはとてもありがたいことだ。

皆様も、困ったときにはまずケアマネさんや民生委員の方にご相談を！介護の問題だけではなく、どんなことも一人で悩むより、相談して一緒に考えてもらう方が遥かに良い解決法が思いつくものだ。人の手を借りずに生きられる人はいない。かっこ悪くてもいいじゃないか、困った時こそ助けを求めよう。そして時には私が助け、時には助けていただくことを通して地域の結びつきを強めよう。

